



U18からの提案

～中学生編～



公職選挙法が改正され、選挙権年齢が18歳以上となりました。4年後には選挙権を得る、多古中学校2年生91名が考える“まちづくり”とはどのようなものか伺ってみました。

※U18とは18歳以下という意味です。

多古町の良いところは？

自然が豊か そうだ！29

あじさい遊歩道 そうだ！13

道の駅 そうだ！13

多古米 そうだ！8

イベントが多い そうだ！5

町民体育館 そうだ！4

図書館 そうだ！4 など



提案1

多古町の自然を愛そう！ 守ろう！プロジェクト

ココがよいところ
自然が豊かで空気がおいしい



良いところを伸ばすには？

■月に一度、町民で雑草をきれいにしたり、ゴミ拾いを行う日を作る！



多古町の問題点は？

交通の便が悪い そうだ！35
(電車が通ってない、バスの本数が少ないなど)

道路整備 そうだ！19
(歩道整備を含む)

街灯が少ない そうだ！11

少子高齢化が進んでいる そうだ！6

娯楽施設がない そうだ！5

中心部以外栄えていない そうだ！5 など

提案2

過密地域脱出プロジェクト

ここが問題点

バスの本数が少なく、電車の駅がないので交通の便が悪いため、移住する人が少ない…



問題点を解決するには？

■バスの本数を増やす、駅をつくるなどして交通の便を整えれば、東京にも通いやすくなって、過密地域からの移住者も増える！



【斉藤直行さん・理枝さん】
東松崎在住。平成30年に「(株)さいとう農園」として法人化。現在の経営規模は畑作19ha、稲作3.5ha。家族4人と外国人研修生7人、パート5人でトウモロコシやキャベツ、フリルレタスなど多品目にわたる野菜作りを行っている。



多古町にお住まいの「その道」をひた走る方々にお話しを伺ってみると、そこには新しいまちづくりや町を元気にするヒントが…。

笑顔が見える農業を目指して ～消費者目線での、安心野菜づくりと家族の輪～

さいとう 直行さん・りえ 理枝さん

～どうして農業を継ごうと？～

大学卒業後、サラリーマン生活をしていましたが、バブルがはじけ、将来に不安を感じていました。実家が農家であり、長男だったので、いずれは家を継がなければと考えていた時に、友達が野菜の出荷組合を立ち上げるという話があり、その意欲に刺激され、農業をやろうと決めました。先細り傾向にあった葉タバコ栽培をやめ、稲作と年間を通して出荷できる野菜作りへと転換しました。(28才の時です。)

～やりがいを感じる時は？～

お客様から笑顔で「美味しかったよ」と嬉しい言葉をいただいた時とか、出荷先から「あなたの野菜がぜひ欲しい」との要望をもらった時、いい品質の作物ができた時ですね。(自己満足笑)

～今後目指す農業経営は？～

販路の拡大と希少価値のある作物を作りたいです。露地野菜栽培と共に、施設栽培にも取り組み、年間を通して安定した生産販売を目指したいです。スーパーや加工販売業者との契約栽培、あるいはインターネットを通して多古町の美味しい米と野菜を広めていきたいです。

～interviewer's eye～



今、我が国の農業は多くの問題を抱えています。農業人口の減少は最たるものです。昭和45年に1100万人いた農業従事者が平成27年には200万人まで減ってしまったとの調査結果です。わずか50年の間に900万人の離農者があったということです。減反政策から始まり、社会情勢が工業・商業に大きく舵をきられたことと高齢化による労働力不足、そして自然に大きく左右され不安定な収益であったことが大きな要因でしょう。しかしながら、農業は決して衰退産業ではありません。食を支える農業はインフラの一部であり欠かせないものです。生産性を重視して大規模化するか、こだわりや希少価値でブランド化するか、従来の農業と異なり、生産・加工・流通・販売まで自由な選択ができるようになりました。6次産業に取り組んでいる農家も増えてきました。食に関するビジネスが農業のビジネスチャンスとも言える時代になってきたとも言えるでしょう。今回は、稲作・葉タバコ中心の農業から消費者の要望に応えた生鮮野菜と加工用野菜作りに経営内容を変え頑張っている農家にスポットをあてました。(佐藤 幸三 委員)

～後継者、新規就農者を育てるため、町に望むことは？～

遊休農地の解消と農地の集約による農業用地としての環境づくりと後継者、新規就農者へ農業施設等の初期投資に一層の支援、そして機械のリース及びレンタルを望みます。